

## いのちの授業（小中学校）【神奈川県】

### ＝公立小中学校における「いのちの授業」の実践事例を紹介＝

（実施期間）平成24年度～

（基金事業メニュー）普及啓発事業

（実施経費）500千円

（実施主体）神奈川県

#### 【事業の目的】

児童・生徒が、自他の「いのち」を尊重し、夢や希望をもって生きることの大切さや、他者を思いやる心を育み、自己肯定感や社会の一員としての自覚を高めることができるよう、学校現場において、教科、道徳、特別活動などあらゆる機会を通じて、「いのち」の大切さを学ぶ「いのちの授業」を継続して実施し、各学校への浸透を図る。

※地域の特徴・自殺者数の動向については、P115「自殺対策に関する出前講座【神奈川県】」参照

#### 【事業内容】

県で従前から取り組んでいる『いのち』を大切にすることをはぐくむ教育推進事業の継続実施にあたり、地域自殺対策緊急強化基金を活用している。県内の小中学校から5校を推進校に指定し、各校の工夫で「いのちの授業」を実践する。助産師や酪農経営者などの講師を依頼して、いのちを学ぶ時間を設定したり、道徳などの授業研究会のアドバイザーとして大学教授を招聘するなどの取組をする。

それらの推進研究校をはじめ、県内の各学校で行われている様々な実践を、「いのちの授業」として位置づけ、光をあてるとともに、幅広い事例を収集し、県教育委員会ホームページに、随時掲載し、啓発を図る。

#### 【事業実施にあたっての運営体制】

担当：神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課指導主事

方法：ホームページで公募 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/p481802.html>

#### 【事業の工夫と成果】

- ① 知事みずからが、小学校へ行き「いのちの授業」を実践し、ホームページに掲載した。

<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/476769.pdf>

- ② 他にも、以下のように、ホームページで、「いのちの授業」をいくつか紹介している。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/p491929.html>

#### 黒岩知事が行う「いのちの授業」

7月11日（水）の「黒岩祐治が行く！神奈川の現場」では、中井町立井ノ口小学校（『いのち』を大切にすることをはぐくむ教育推進事業推進研究校）において、知事が4年1組25名の子どもたちに『いのちの授業』を行いました。

## 葉っぱの集い

「自分がもし、一枚の葉っぱだったら、世界はどんな感じに見えるかなあ。」

先週、子どもたちは近くの森に出かけ、木々に触れながら、一枚の葉っぱになりきって、その気持ちを感じました。そして自分の葉っぱを絵に描きました。



今日の授業は、黒板の大きな幹に貼った自分たちの葉っぱを見るところからスタートです。

「その一枚の葉っぱから、世界はどんな感じに見えたかなあ。」

知事が子どもたちに問いかけました。

子どもたちは一人ずつ、葉っぱになった自分が見た世界を、絵を見せながら語っていきます。

「ぼくの家が、上から見えました。」

「海が見えて、町が遠くに見えました。」

「ちがった視点から物事を見てみよう。」

今度は、知事が真上から男の子をカメラで写し、どんなふうに写るかをみんなで考えます。

皆が見ている世界は、自分が見ている世界とは違うことを理解し、相手の目になって考えられれば、相手を思いやれる。それが、いのちが輝くことにつながるのです。

授業が終わって子どもたちが知事の周りに集まってきました。

全員と握手をして、クラスみんなに色紙を書いて贈りました。



## いのちの授業 見つけた！神奈川県公立学校における「いのちの授業」アラカルト

## 「小中学校篇」

## いのちの誕生

日が出始めたばかりの早朝の小学校。教師が今朝産卵されたばかりのメダカの卵を1個ずつ丁寧に磨き、それをケースに分け入れています。各ケースにはひとりずつ、5年生の名前が貼ってあります。

このケースはこの教師が自分で考案しました。持ち歩くこともできて、そのまま顕微鏡で観察できる優れたもの。実はフロッピーディスクのケースに、水が漏れないように小さな袋を入れたものです。

この子たちは今日から自分の卵を自分で管理して、毎日観察します。アクシデントがあっても大丈夫。理科準備室の入り口には『メダカ診療所』という看板が掲げられています。

この授業は1時間目ではなくてはいけません。この授業の噂を聞いた保護者も朝から来ています。今まさに細胞分裂を始めたばかりの卵を観察するのです。それは、ひとりに2つずつ、先生から飼育を任せられた自分の卵。

この子たちは、今日から毎日、命の不思議を記録することになります。

言い忘れましたが、この教師はこの子たちの校長先生です。



### いのちのありがとう

ある小学校の教室の後ろに、「ありがとうという言葉」という模造紙が貼ってありました。ハート形のカードに「A奈さんへ えんぴつけずりをかしてくれてありがとう B太より」などと書かれています。まだ新学期5日目なので、少ししか貼ってありませんが、もうこんなのがありました。

「C奈さんへ すぐなかなおりしてくれてありがとう D太より」

新学期早々けんかしてしまったのですね。

そのD太さんへ、別の子が感謝してるカードがあります。

「D太さんへ C奈さんとけんかをしてもなかなおりをできていてありがとう E奈より」

E奈さんは、第三者ですが、二人が仲直りできたことについて当事者のD太さんに感謝している。

このカードは、さりげなく貼って、読みあって、それで感じ合う。とっても素敵なアイデアです。中には書いた人や書かれた人にもっと事情や気持ちを聞いてみたくなる「ありがとう」もあります。お互いが受けとりあい、分かり合うこと。そうした関係ができていくことは、いのちの基礎です。



### いのちは大切な「たからもの」

「たからもの」

45分間の道徳で、小学校1年生の脳裏に印象づけられたキーワードです。

(ハムスターの)おかあさんが あかちゃんを 口にくわえているよ  
あかちゃんを そっとかんでいるみたい

まるで たいせつな たからものを まもっているようだね

黒板は主にチョークで書きましたが、このキーワードだけ、紙に書いて用意してありました。教師は、初めから、このキーワードを子たちに残したいと考えて準備してきたのです。

週一回だけの道徳。授業のあとに何が残るか。何を残すか。

後半、全員にお母さんからの手紙が手渡されました。教師が全員の保護者に頼んで書いてもらった「あなたが生まれた時のこと」。みんな真剣に読んでいます。

「じゃあ、最後に、〇〇くんのお母さんのお手紙、読ませてもらおうかな。」

「よんで!」「えー」「どんなんだー?」

「・・・とても小さいけれど、元気に生まれてきてくれたことが、とてもうれしくて、涙があふれました。小さな手を握り、寝顔を見ているだけで、優しい気持ちになりました。〇〇くんは、ずっとママのたからものです。ママの子に生まれてきてくれて、ありがとう。」

『たからもの』だって」「ハムスターと同じだ」「ありがとうだって」

授業のあとに何が残るか。何を残すか。

授業を終えて、子どもたちの小さな手には、一通のたからものが握られていました。



## 【いのちの授業】

子どもの感想から

○今、こうして生きているのは、いろいろなもの、人から支えられて、こうして大きく成長していることを、また改めて実感しました。両親に感謝し、両親から受け継がれたこの命を大事に、また私を支えてくれた周りの人達にも感謝をしていきたいと思います。そして、このことを気づかせてくれたのは、講師のおかげです。

○毎日飲んだり食べたりしているものは、一つの命からできていることを知りました。一つの命でも色々な苦勞があるので、今までは当たり前のように、食べたり飲んだりしていましたが、これからは命を大事に、感謝して普段の生活を送っていきたいと思いました。

○僕が生まれたのは、何億個の命の素から選び抜かれたものなんだなと思いました。一人ひとりひとつずつ持っている「命」。この「命」を次の命につながないといけないと思いました。

(問合せ先) 神奈川県教育局支援部子ども教育支援課  
TEL:045-210-8292  
URL : <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/>